



# 令和6年度 水稻生育診断情報 No. 4

(令和6年7月26日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL: 0748-46-4391)

(次回は8月下旬の予定)

## 現在の生育状況

◎作況調査(5月10日移植)の「みずかがみ」「コシヒカリ」では、草丈は平年並～やや長く、莖数はやや少なく、葉色は平年並～やや濃い。出穂期は、「みずかがみ」が平年より2日早い7月21日、「コシヒカリ」が平年より3日早い7月24日である。

◎県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、平年並～やや早く幼穂形成期および出穂期を迎えている。

## 管理のポイント

◎稲作期間の中で出穂期前後の要水量が最も多く、特に白未熟粒等の発生を軽減するため、出穂期前後各3週間は常時湛水を行う！水深は3cmから5cmの浅水で管理する。

◎斑点米カメムシ類の発生量が多いことから防除対策を徹底する。防除は、ほ場周辺に小型カメムシ(アカスジカスミカメ等)が多い場合は乳熟期頃(出穂7～10日後)に行い、大型カメムシ(ホソハリカメムシ類)が確認できるほ場では糊熟期頃(出穂10～20日後)に行う。イネカメムシが多く生息しているほ場では、防除時期を繰り上げ、出穂期に防除する。

◎穂いもち防除を適切に行う。

## 1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
6月	下旬	平年並	平年並	かなり少ない	かなり多い
7月	上旬	かなり高い	高い	多い	平年並
	中旬	平年並	平年並	かなり少ない	かなり多い

注) 気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)

日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)

降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

(2) 近畿地方1か月予報(7/27～8/26までの天候見通し)【大阪管区気象台7月25日発表】

- 向こう1か月の天候は、平年と比べて晴れの日が多い。
- 気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込み(高い確率80%)
- 降水量はほぼ平年並の見込み。
- 日照時間は平年並か多い見込み。

## 2 生育状況

【農業技術振興センター 水稻作況調査による。表1、表2および後掲グラフ参照。】

- 草丈は「みずかがみ」は平年よりやや長く、「コシヒカリ」は平年並。(7/10 調査)
- 茎数は「みずかがみ」、「コシヒカリ」ともに平年よりやや少ない。(7/10 調査)
- 葉色は「みずかがみ」は平年よりやや濃く、「コシヒカリ」は平年並。
- 幼穂形成期は「みずかがみ」、「コシヒカリ」ともに平年より1日早い。
- 出穂期は「みずかがみ」は平年より2日早い7月21日、「コシヒカリ」は平年より3日早い7月24日であった。

表1 令和6年(2024年)水稻作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m <sup>2</sup> )				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
7/10	みずかがみ	83.9	79.8	105	80.5	495	510	97	423	43.5	40.8	107	40.9	13.4	12.4	1.0	12.6
	コシヒカリ	80.2	80.5	100	81.5	534	555	96	484	36.8	37.5	98	35.8	12.2	11.8	0.4	12.0
	きらみずき	67.9	-	-	-	440	-	-	-	40.8	-	-	-	11.7	-	-	-
7/20	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	40.1	38.2	105	38.0	14.0	13.2	0.8	13.4
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	38.5	37.8	102	34.2	13.5	13.0	0.5	13.3
	きらみずき	75.1	-	-	-	426	-	-	-	39.3	-	-	-	12.9	-	-	-

※移植日：5月10日(播種日：4月19日)。栽植密度：18.5株/m<sup>2</sup>、植付本数：3本/株

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は過去10年平均(平成26～令和5年)の値。

※「きらみずき」は令和6年から有機質肥料を用いて調査開始

### 7月20日現在の生育状況



みずかがみ



コシヒカリ



きらみずき

表2 水稻作況調査 生育ステージ (7月20日時点)

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種：「みずかがみ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月29日	6月30日	1日早い	6月30日
出穂期	7月21日	7月23日	2日早い	7月23日
成熟期	未	8月25日	—	8月24日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月2日	7月3日	1日早い	7月5日
出穂期	7月24日	7月27日	3日早い	7月27日
成熟期	未	8月31日	—	8月28日

品種：「きらみずき」

生育期	本年	平年	較差	前年(参考値)
幼穂形成期	7月14日	—	—	7月14日
出穂期	未	—	—	8月5日
成熟期	未	—	—	9月14日

※移植日：5月10日(播種日：4月19日)。栽植密度：18.5株/㎡、植付本数：3本/株

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は過去10年平均(平成26～令和5年)の値。

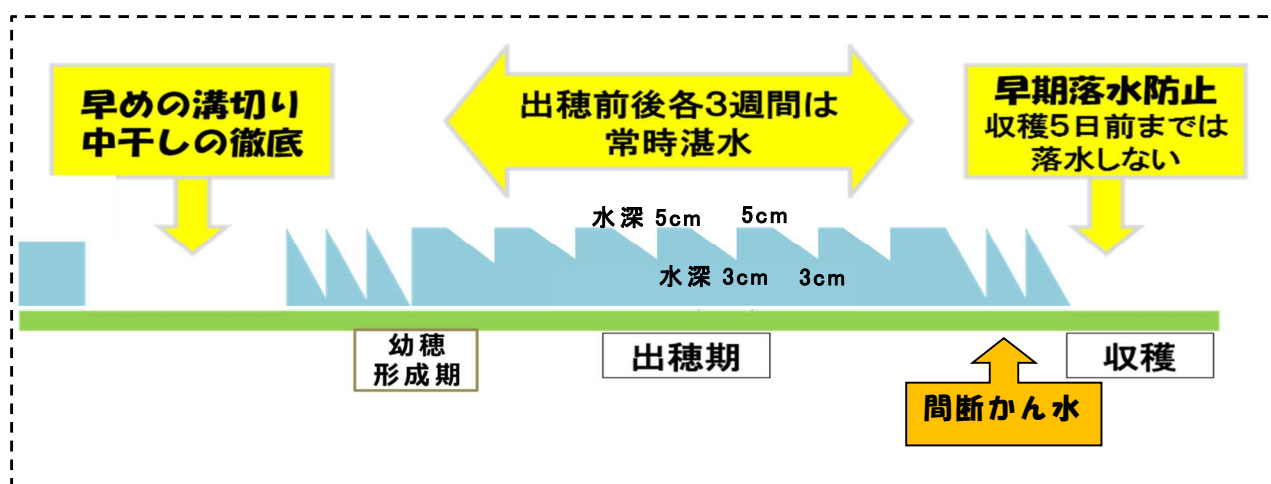
※「きらみずき」は令和6年から有機質肥料を用いて調査開始

### 3 今後の管理

#### (1) 適正な水管理

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う(図1)。
- 湛水管理では、水深3cm～5cmの浅水管理を行う。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる(図2)。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



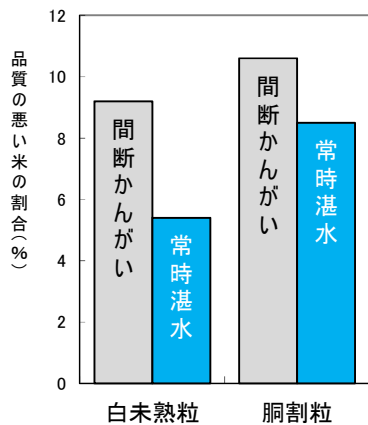


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係  
(滋賀農技セ 2006年「コシカリ」)

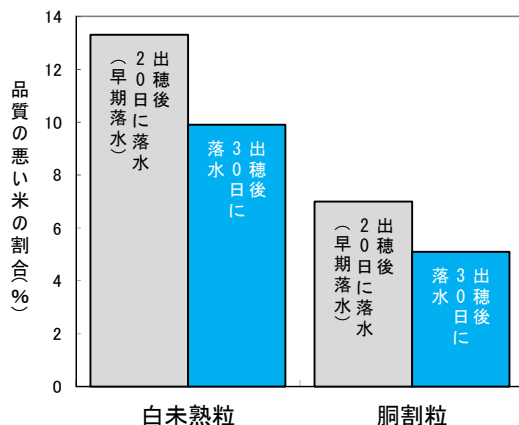
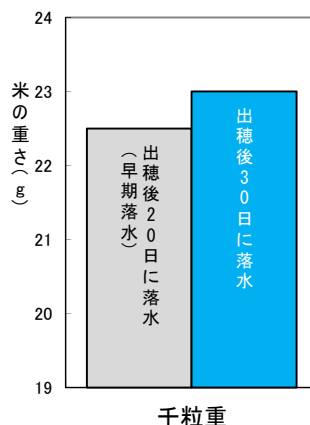


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係  
(滋賀農試湖北分場2004年「コシカリ」)



出穂前後の常時湛水で  
白未熟粒、胴割粒が減ります

収穫直前まで入水すると、白未熟粒、  
胴割粒が減り、収量も増加します

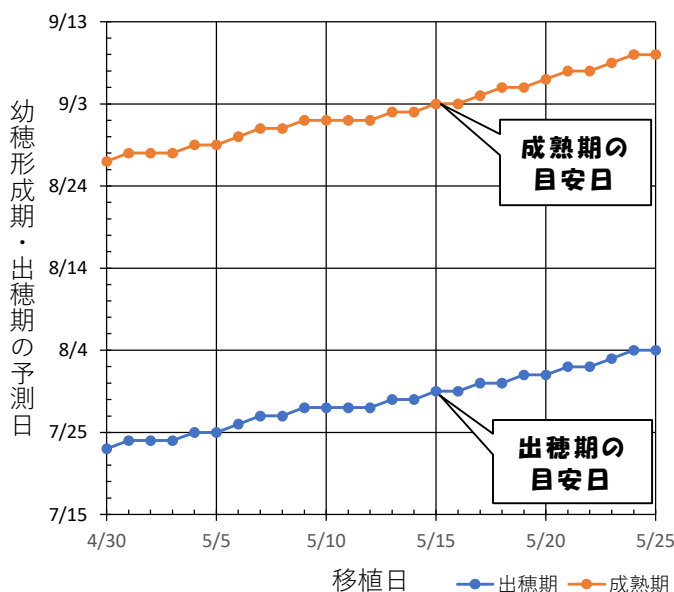
## (2) 適期収穫

■ 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種(「コシヒカリ」等)だけでなく、中生品種(「秋の詩」等)でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

■ 収穫時期が近づいたら、ほ場に入って穂(籾)の色を手にとって確認し、黄化籾が85~90%になった頃に収穫する(図3)。

特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないよう注意する。

### 【参考】「コシヒカリ」の出穂期および成熟期の目安日



### ☆登熟日数の目安

品種名	出穂期から成熟期までの日数
みずかがみ	平均33日 (32~37日)
コシヒカリ	平均35日 (32~39日)
きらみずき	平均38日 (33~43日)

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は、作況調査の過去10年(平成26~令和5年)の値。  
※「きらみずき」は奨励品種決定調査の過去9年(平成27年~令和5年)の値

※農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)における「コシヒカリ」の稚苗移植の予測。

近江八幡市安土町大中より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる



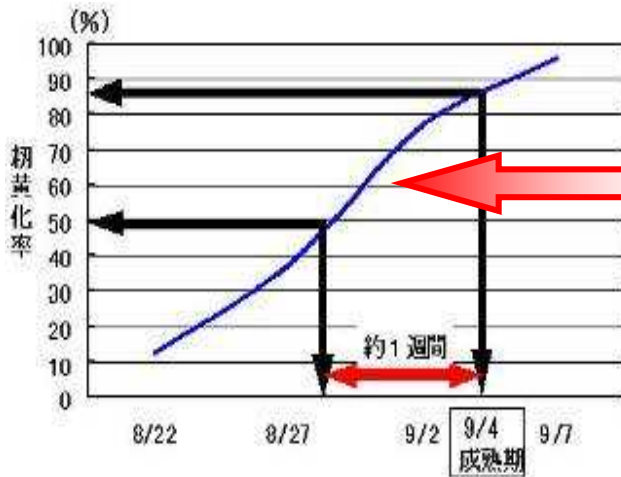


図3 成熟期前の籾黄化率の推移(農業技術振興センター2008年「コシヒカリ」)  
注) 調査方法: 黄化籾の標準見本色を基準に黄化籾と青籾を目視で計数。

【適期収穫のポイント】 ★葉色に惑わされず、ほ場で穂を手にとって確認する。

収穫適期 の目安	①穂の先端から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃 ②籾黄化率85～90%
-------------	--

★収穫7日前の目安: 籾黄化率50%程度・・・収穫適期判定板を活用

適期収穫で割粒を減らそう!  
**収穫適期判定板**

使い方

- ほ場全体を見て、平均的な場所に入ります。
- 穂に判定板(黄色)の色がついている部分をあてます。
- 黄色く熟した籾(モミ)の割合を見て収穫時期を判断します。(判定板の色は熟した籾の色目安です。)

★葉色にまどわされず、穂の割合を見て判断してください。

特に8月～9月の気温が高くなった場合は要注意!

※近年、出穂後(8月～9月)の気温が高く、登熟日数が短くなってきています(下表を参照)。  
※最も短い年は、「コシヒカリ」で30日、「日本晴」で32日、「秋の陣」で34日となりました(平成28年)。

年次	品種名	コシヒカリ	日本晴	秋の陣
平成3年～12年		37日 (34～40日)	41日 (34～48日)	-
平成13年～22年 (最近10年間)		33日 (30～37日)	38日 (32～40日)	38日 (34～44日)

近江米振興協会

収穫7日前頃 (籾黄化率50%程度)

収穫適期 (籾黄化率85%)

黄へたい穂を当てて左右両端とくくらいます  
この色が熟した籾(モミ)の色が目安です

### (3) 病害虫防除

7月23日発表の「病害虫発生予報第7号」参照

<http://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5483584.pdf>

または 県 HP 組織から探す>農政水産部>病害虫防除所>  
病害虫発生予察情報>病害虫発生予報 を参照



#### ①斑点米カメムシ類【発生時期：やや早、発生量：多】

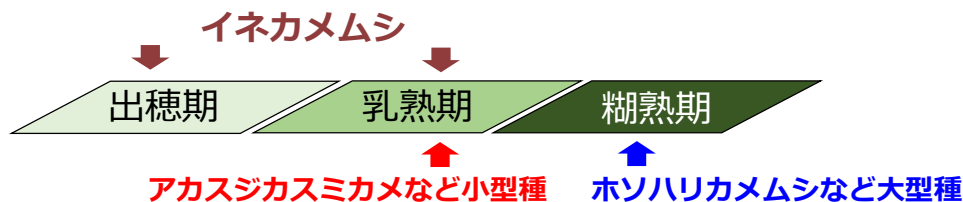
→ **注意報第5号「斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ」を確認！**

<http://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5482343.pdf>



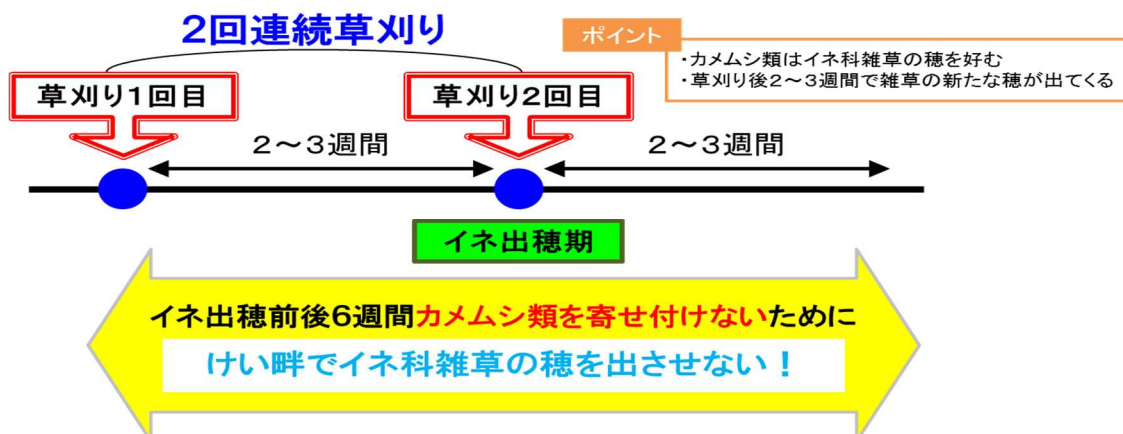
- 出穂した畦畔のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類がほ場周辺に誘引される要因となる。そのため、イネ出穂期の2～3週間前と出穂期頃に除草する。
- 雑草管理が不十分で畦畔や雑草地にイネ科雑草の出穂が多く認められる場合、本田の出穂後に除草すると斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草する場合は、本田での薬剤防除前日に実施する。
- 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので、早急に抜き取る。
- ほ場周辺の畦畔や雑草地に小型種（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ）が多く生息しているほ場では、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。大型種（ホソハリカメムシやクモヘリカメムシなど）が多く発生しているほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に）に防除する。
- イネカメムシが多く生息しているほ場では、防除時期を繰り上げ、出穂期に防除する。
- 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。

#### ◇斑点米カメムシ類の防除時期



#### けい畔2回連続草刈りでカメムシ防除

- ① 出穂2～3週間前と出穂期の2回連続で、けい畔の草刈りを行う。
- ② けい畔でイネ科雑草の穂を出させない。
- ③ 地域で話し合い、一斉に行う。



## ②トビイロウンカ

→ **防除情報第3号「海外飛来性害虫による被害の発生に注意」を確認！**

<http://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5483393.pdf>



- 本県への飛来は確認されていないが、近隣府県で平年より早期に予察灯への飛来が確認されている。
- 極早生品種および早生品種では、今後の防除の必要性は低いと考えられる。
- 中生品種および晩生品種では、7月下旬頃までに飛来した場合は、坪枯れ症状が発生する可能性があるので注意する。
- 株元をよく観察して、出穂期までに発生を認めた場合は薬剤を散布する。

## ③セジロウンカ【発生時期：やや早、発生量：やや多】

→ **防除情報第3号「海外飛来性害虫による被害の発生に注意」を確認！**

- 平均生息数、発生地点率いずれも平年よりも多い。また、一部のほ場では幼虫の発生が確認されている。
- 防除の目安は、「7月下旬の見取り調査で株当たり10頭以上、もしくはすくい取り調査で10回当たり50頭以上が捕獲される場合」である。

## ④コブノメイガ【発生時期：早、発生量：やや多】

→ **防除情報第3号「海外飛来性害虫による被害の発生に注意」を確認！**

- 本田での発生が平年よりも早く、広域で発生が確認されている。
- 9月上旬までに収穫可能な極早生・早生品種では、防除の必要性は低い。
- 晩生品種や晩植田、直播田では被害が発生しやすいので特に注意する。
- 防除の目安は、防除の目安は「8月上旬の被害株率が20%以上、もしくは8月中旬に上位2葉の被害株率が20%以上」である。

## ⑤穂いもち【発生時期：平年並、発生量：平年並】

- 穂いもちは、ほ場の状況（水稻の生育やいもち病の発生状況）をよく確認し、適期に防除する。
  - ・粉剤、液剤（水和剤・乳剤等）は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
  - ・穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
  - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。  
また、粒剤施用の場合は必ず湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止に努めるとともに、散布後1週間は落水やかけ流しは行わない。
- 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループの薬剤を連用しない。

## ⑥紋枯病【発生量：やや少】

- 前年の発生の多かったほ場では特に注意する。
- 防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15～20%以上。
- 病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。
- 粒剤施用の場合は必ず湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止に努めるとともに、散布後1週間は落水やかけ流しは行わない。

## ～農業情報の配信について～



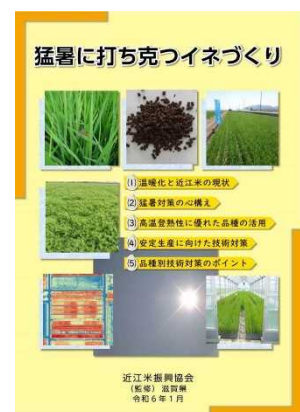
- 滋賀県では、「防災・防犯等の情報をはじめとする滋賀の安全・安心のための情報やイベントのご案内など」を、ご希望の方へ情報配信しています。
- 台風等の気象災害や病害虫の発生が懸念される際に農業技術情報や農業に関するイベントのご案内など農業者向けの情報も配信しています。農業に関するタイムリーな情報収集手段の一つとして、是非ご利用ください。
- 詳しいサービスの説明、ご利用上の注意及び利用規約は下記の滋賀県ホームページをご覧ください。

滋賀県ホームページ「しらが（しらせる滋賀情報サービス）ご案内」  
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/ict/306374.html>



## 「猛暑に打ち克つイネづくり」について

- 令和6年5月21日大阪管区気象台発表の3か月予報では、近畿地方の平均気温は高い見込みです。
- 今後の水稻の生育、気象には十分に注意しながら、猛暑に打ち克つイネづくりをすすめましょう。



【参考】「猛暑に打ち克つイネづくり（令和6年1月近江米振興協会）」  
<https://www.ohmimai.jp/images/news/pdf-seisan-inedukuri01.pdf>



### 【参考サイト】

農業技術振興センター  
病害虫防除所  
彦根地方気象台  
早期天候情報

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/>



農業技術振興センター



病害虫防除所



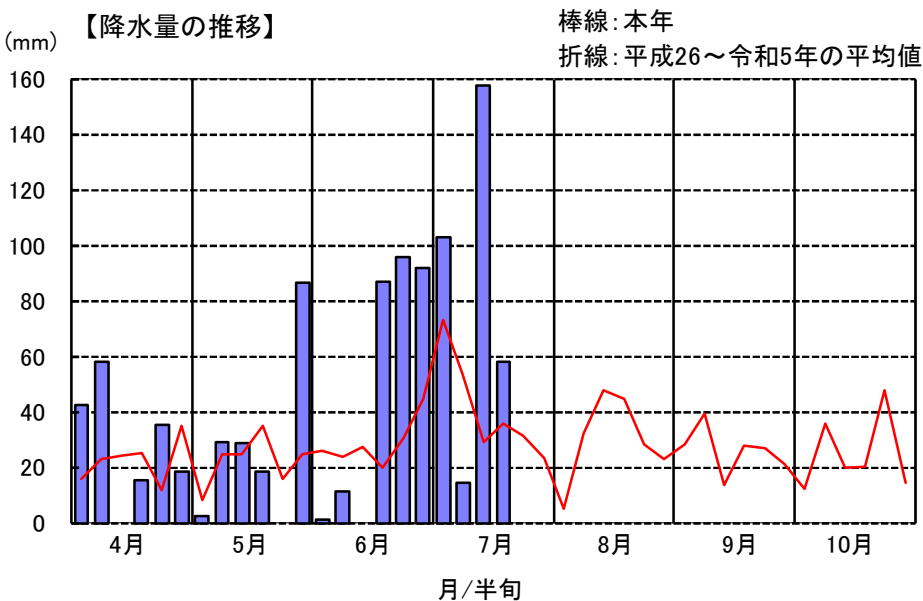
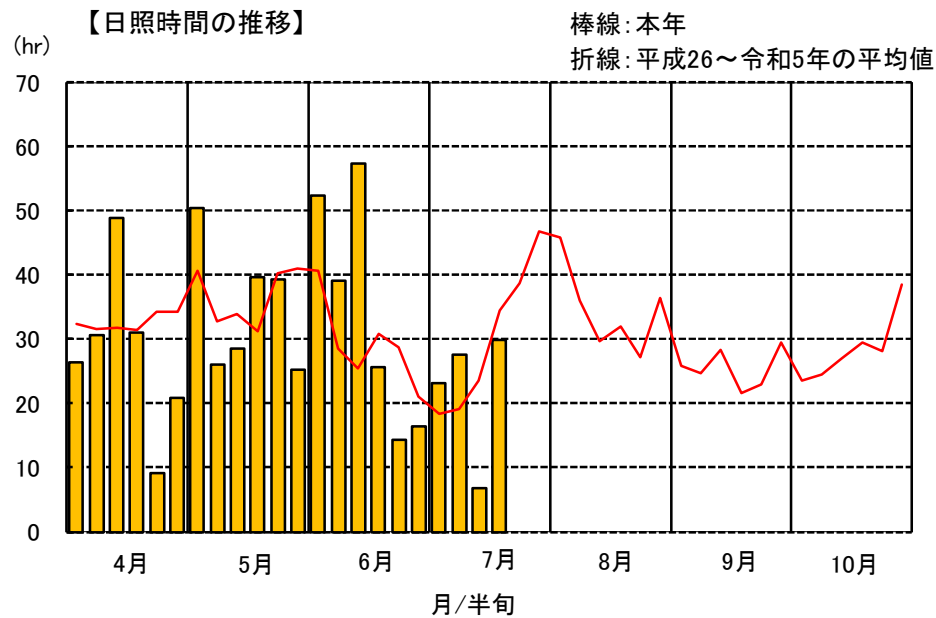
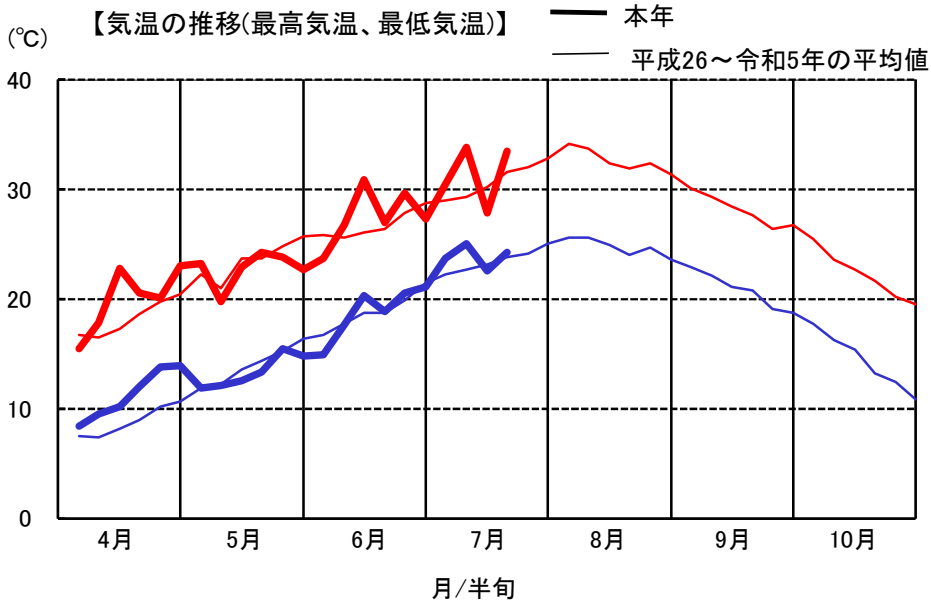
彦根地方気象台



早期天候情報



令和6年(2024年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



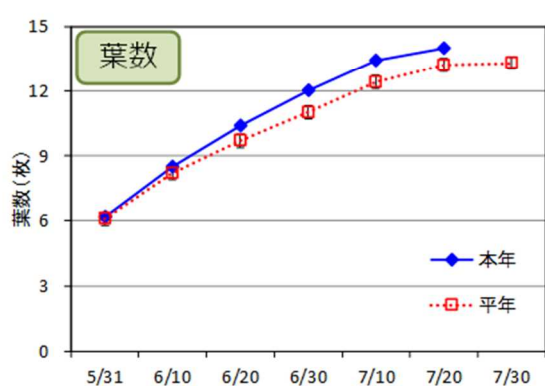
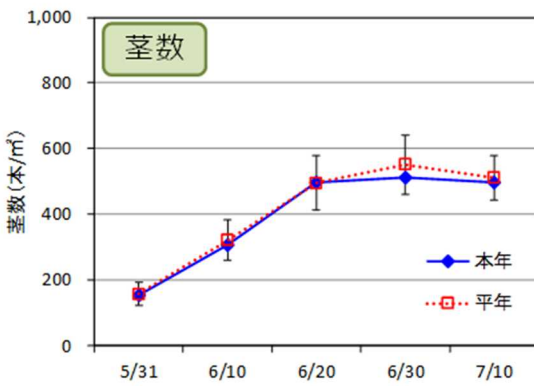
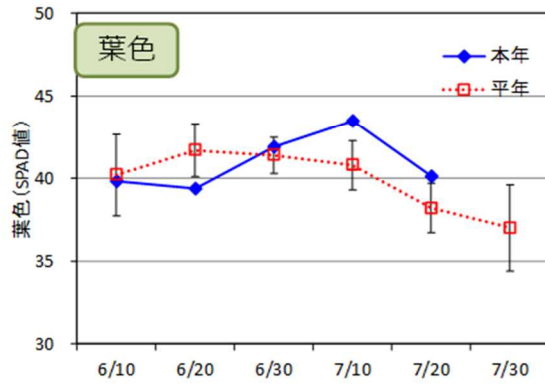
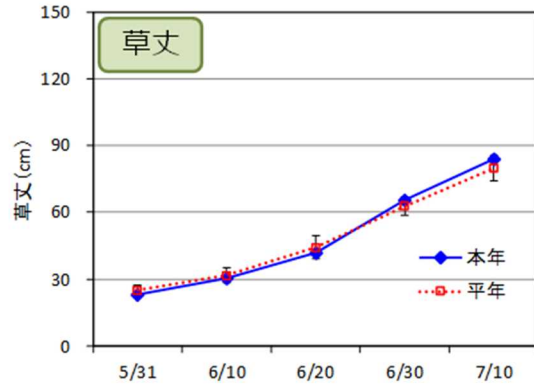
注) 平年は平成26~令和5年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

# 令和6年(2024年) 水稲作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

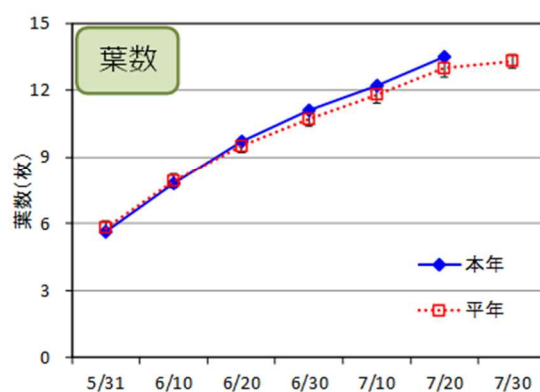
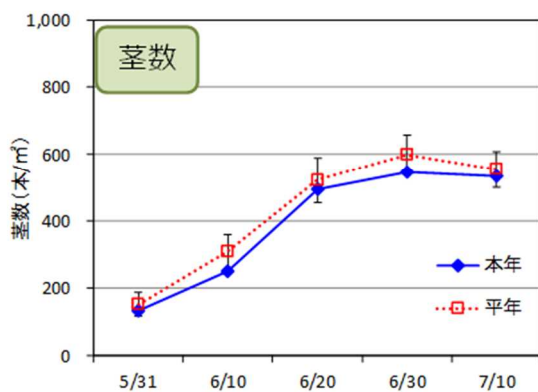
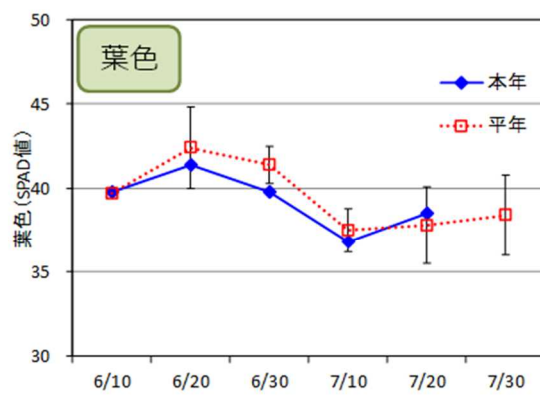
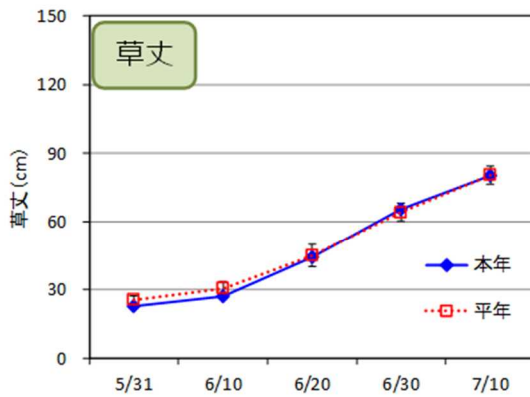
## みずかがみ

播種: 4月19日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m<sup>2</sup>、植付本数: 3本/株



## コシヒカリ

播種: 4月19日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m<sup>2</sup>、植付本数: 3本/株



注) 平年は過去10年(H26年~R5年)の平均値。

# きらみずき

播種:4月19日、移植:5月10日、栽植密度:185株/m<sup>2</sup>、植付本数:3本/株

